

2017年8月期 第1四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。

私から、2017年8月期第1四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第1四半期決算概要	P3	～	P17
II. 2017年8月期 通期業績予想	P18	～	P20
III. ご参考資料	P21	～	P23

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： ジューシー事業、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

増収増益

単位：億円

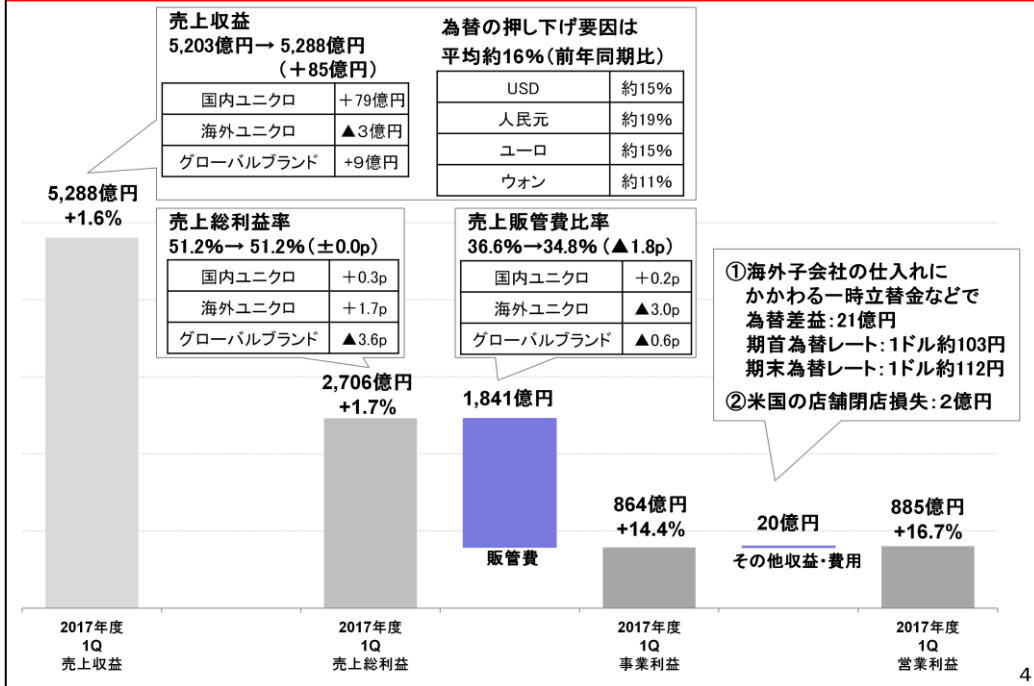
	2016年8月期	2017年8月期	
	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
売上収益 (売上比)	5,203 100.0%	5,288 100.0%	+1.6%
売上総利益 (売上比)	2,662 51.2%	2,706 51.2%	+1.7% 0.0p
販管費 (売上比)	1,906 36.6%	1,841 34.8%	▲3.4% ▲1.8p
事業利益 (売上比)	755 14.5%	864 16.4%	+14.4% +1.9p
その他収益・費用 (売上比)	3 0.1%	20 0.4%	+531.9% +0.3p
営業利益 (売上比)	759 14.6%	885 16.8%	+16.7% +2.2p
金融収益・費用 (売上比)	17 0.3%	156 3.0%	+794.8% +2.7p
税引前四半期利益 (売上比)	776 14.9%	1,042 19.7%	+34.2% +4.8p
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (売上比)	480 9.2%	696 13.2%	+45.1% +4.0p

3

2017年8月期 第1四半期の連結業績ですが、
 売上収益は5,288億円、前年同期比1.6%増、
 売上収益から売上原価、販管費を控除して算出した、
 事業そのものの収益を示す事業利益は864億円、同14.4%増、
 営業利益は885億円、同16.7%増、
 税引前四半期利益は1,042億円、同34.2%増、
 親会社の所有者に帰属する四半期利益は696億円、同45.1%増と、
 増収増益となりました。

売上収益は計画に対して若干下回りましたが、営業利益は上回っております。

【連結】第1四半期 営業利益



まず、連結の損益計算書のポイントについて、ご説明いたします。

売上収益は5,288億円、前年同期比85億円の増収となりました。海外ユニクロ事業が若干の減収となっておりますが、これは、為替レートが前年の第1四半期に比べて平均で約16%の円高となり、業績を押し下げたためです。なお、現地通貨ベースでは、計画通り増収となっております。

売上総利益率は51.2%と、前年同期比で横ばいとなりました。これは、国内ユニクロ事業、海外ユニクロ事業で粗利益率が改善した一方で、グローバルブランド事業の粗利益率が低下したためです。

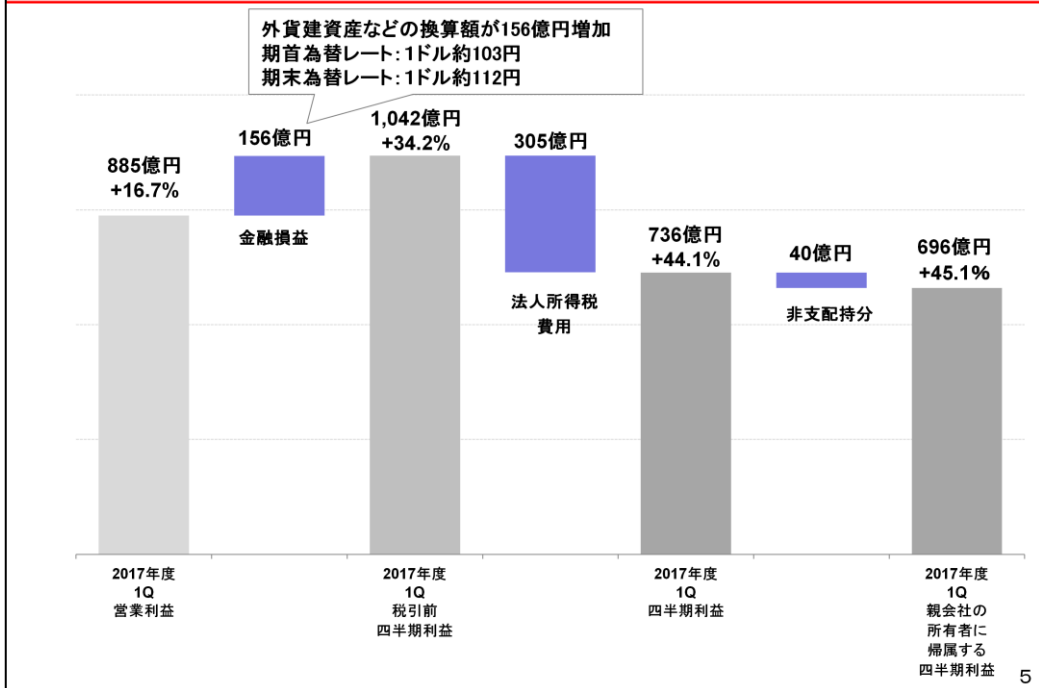
売上販管費比率は34.8%と、同1.8ポイント低下いたしました。これは主に、海外ユニクロ事業で同3.0ポイント低下したためです。

事業利益は864億円と、同14.4%の増益となりました。

その他収益・費用の合計は20億円のプラスとなっております。これは主に、11月末の為替レートが、期首に比べ円安となったことにより、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などに為替差益が21億円発生したこと、1月に閉店した米国の1店舗閉店に伴う除却損・閉店損が2億円発生したことによります。

これらの結果、営業利益は885億円、同16.7%の増益となりました。

【連結】第1四半期 親会社の所有者に 帰属する四半期利益



次に、金融損益ですが、期首に比べ、為替が円安になったことから、外貨建資産などの換算額が増加し、金融損益はネットで156億円のプラスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は1,042億円と同34.2%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は696億円、同45.1%増と計画を上回る大幅な増益となりました。

【セグメント別】第1四半期実績

単位:億円

		2016年8月期	2017年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	2,309	2,388	+3.4%
	事業利益	444	461	+3.8%
	(売上比)	19.3%	19.3%	0.0p
	その他収益・費用	3	▲5	-
	営業利益	448	456	+1.8%
(売上比)	19.4%	19.1%	▲0.3p	
海外ユニクロ事業	売上収益	1,969	1,965	▲0.2%
	事業利益	214	306	+42.4%
	(売上比)	10.9%	15.6%	+4.7p
	その他収益・費用	▲6	▲4	-
	営業利益	208	301	+44.6%
(売上比)	10.6%	15.3%	+4.7p	
グローバルブランド事業	売上収益	918	927	+1.1%
	事業利益	123	96	▲21.6%
	(売上比)	13.4%	10.4%	▲3.0p
	その他収益・費用	0	0	-
	営業利益	124	95	▲22.7%
(売上比)	13.5%	10.3%	▲3.2p	

注: 連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。
国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6

6ページのスライドは、セグメント別の業績です。
各セグメントの詳細については、次のスライドからご説明いたします。

1Q (9~11月) 営業利益は計画を若干上回る

	2016年8月期 実績	2017年8月期 実績	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比
売上収益 (売上比)	2,309 100.0%	2,388 100.0%	+3.4%
売上総利益 (売上比)	1,174 50.8%	1,220 51.1%	+4.0% +0.3p
販管費 (売上比)	729 31.6%	759 31.8%	+4.1% +0.2p
事業利益 (売上比)	444 19.3%	461 19.3%	+3.8% 0.0p
その他収益・費用 (売上比)	3 0.2%	▲5 -	- -
営業利益 (売上比)	448 19.4%	456 19.1%	+1.8% ▲0.3p

単位：億円

注：国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

7

まず、国内ユニクロ事業の第1四半期の業績ですが、売上収益は2,388億円、前年同期比3.4%増、営業利益は456億円、同1.8%増の増収増益となりました。

売上収益はほぼ計画通りの水準でしたが、営業利益は計画を若干上回っております。



【国内ユニクロ事業】売上収益の状況

1Q 売上収益 2,388億円（前年同期比+3.4%）
（9～11月） **ECマースを含む既存店売上高は同2.5%増収**

既存店 前年比	2017年8月期				
	9月	10月	11月	1Q累計	12月
売上高	▲3.4%	▲0.6%	+7.3%	+2.5%	▲5.0%
客数	+2.1%	+4.2%	+4.1%	+3.7%	▲4.0%
客単価	▲5.4%	▲4.6%	+3.0%	▲1.1%	▲1.0%

2016年11月末 直営店800店舗、前年同期末比▲6店舗、FC店41店舗、同+3店舗

- ・9月、10月は、気温が高く推移したため、秋冬商品の需要が弱く、既存店売上高は減収
- ・11月は、気温が前年より低下したこと、感謝祭の販売が好調だったことから売上が回復し、大幅増収。特にカシミアセーター、ヒートテック、アウター類などの冬物コア商品の販売が寄与
- ・客数 +3.7% ： 第1四半期の3ヶ月間を通して、前年同期比で増加。改善傾向は継続
- ・客単価 ▲1.1% ： ボトムスの構成比の伸びの一巡、一部商品での値下げにより減少したが、11月は、単価の高いアウター類、カシミアセーターが好調、客単価は増加
- ・ECマースの売上は同11.3%の増収。前年に比べ伸び率がやや鈍化
これは、繁忙期において、翌日配送サービスを中止したことによる影響など
- ・12月の既存店売上高は、マイナス5.0%、計画を若干下回る。1月の初売りは非常に好調

国内ユニクロ事業の、ECマースを含む既存店売上高は前年同期比で2.5%の増収となりました。

9月、10月は、気温が高く推移したため、秋冬商品の需要が弱く、既存店売上高は減収となりました。

11月は、気温が前年より低下したこと、感謝祭の販売が好調だったことから売上が回復し、大幅な増収に転じました。特に、カシミアセーター、ヒートテック、アウター類などの冬物コア商品の販売が好調で、増収に寄与しました。

既存店売上高の内訳は、客数で3.7%の増加、客単価で1.1%の減少です。客数は、第1四半期の3ヶ月間を通して増加しており、客数の改善傾向が続いております。

客単価は、ボトムスの構成比の伸びが一巡した影響や、一部商品で値下げを実施したことから減少していましたが、11月は、単価の高いアウター類、カシミアセーターの販売が好調で、客単価は増加となりました。

ECマースの売上は同11.3%の増収でした。前年に比べて伸び率がやや鈍化しておりますが、これは、繁忙期において翌日配送サービスを中止した影響などによります。

なお、先日発表した12月の既存店売上高は、マイナス5.0%と計画を若干下回りましたが、1月の初売りは非常に好調で、多くのお客様にご来店いただけました。

1Q
(9~11月) 売上総利益率 51.1% (前年同期比 +0.3p)

粗利益率は計画を上振れ

- ・「毎日お買い求めやすい価格」戦略を徹底したことで、限定値引率が減少
- ・今年の感謝祭は、昨年比べて3日間増えたが、値引率は計画通りにコントロール
- ・一部秋冬商品の値下げを実施したため原価率は上昇も、値引率をコントロールすることで吸収

9

次に、国内ユニクロ事業の売上総利益率ですが、51.1%と前年同期比で0.3ポイント改善いたしました。これは、計画に対して上振れしております。

粗利益率が計画に対して改善したのは、2016年春から開始した「毎日お買い求めやすい価格」戦略を徹底したことで、限定値引率が減少したことによります。

また、今年の感謝祭は7日間と、昨年比べて3日間増えましたが、値引率は計画通りにコントロールすることができました。

なお、一部秋冬商品の値下げを実施したため原価率は上昇いたしましたが、値引率をコントロールすることで吸収しております。

1Q
(9~11月) 売上販管費比率 31.8% (前年同期比 +0.2p)

物流費以外で経費削減が進み、
経費は金額ベース、売上比率ベースで計画通り

物流費	前年同期比	+ 0.9 ポイント
その他経費	同	- 0.3 ポイント
広告宣伝費	同	- 0.2 ポイント
人件費	同	- 0.1 ポイント
減価償却費	同	- 0.1 ポイント
賃借料	同	± 0.0 ポイント

10

売上販管費比率は31.8%と、前年同期比0.2ポイント上昇いたしました。物流費比率は上昇しておりますが、物流費以外で経費削減が進んだことから、経費は金額ベース、売上比率ベースともに、ほぼ計画通りの水準となりました。

物流費が同0.9ポイント増加しておりますが、これは有明倉庫の賃料および物流改革に伴う一時的な費用が増加したためです。物流費は金額ベースでも計画を若干上回っております。

一方で、物流費を除く各費用項目では、経費削減が計画以上に進んでおります。具体的には、出張旅費、水道光熱費、委託費などの削減により、その他経費で同0.3ポイント改善、チラシやTVCMなどの広告の効率化により、広告宣伝費で同0.2ポイント改善することができました。

1Q (9~11月) 営業利益は計画を上回る、大幅な増益

- ・為替による業績の押し下げ要因は約16%
- ・売上収益は0.2%減収も、為替の影響を除いた現地通貨ベースではすべてのエリアで計画通り増収。各エリアで着実に事業を拡大
- ・粗利益率改善、経費削減により、営業利益は計画を上回る大幅増益
- ・特にグレーターチャイナ、東南アジア・オセアニアが大きく寄与
- ・11月末の店舗数は、前年同期末比で145店舗純増し、1,009店舗
2001年の海外1号店を出店してからの16年目で1,000店舗を突破

		2016年8月期		2017年8月期		単位:億円
		第1四半期実績	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	
海外ユニクロ事業	売上収益	1,969	1,965	▲0.2%		
	事業利益	214	306	+42.4%		
	(売上比)	10.9%	15.6%	+4.7p		
	その他収益・費用	▲6	▲4	-		
	営業利益	208	301	+44.6%		
	(売上比)	10.6%	15.3%	+4.7p		

11

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上収益は1,965億円、前年同期比0.2%減、営業利益は301億円、同44.6%増と、営業利益は計画を上回る大幅な増益を達成いたしました。なお、為替による業績の押し下げ要因は約16%となっております。

セグメントの売上収益は、前年同期比0.2%の減収となりましたが、為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、すべてのエリアにおいて、計画通り、増収を達成しております。海外ユニクロ事業は、各エリアで着実に事業を拡大できております。

収益面では、粗利益率が改善したこと、経費削減の実施により、営業利益率が改善、営業利益は計画を上回る、大幅な増益となりました。

エリア別では、特に、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニアの増益が大きく寄与しております。

海外ユニクロ事業の11月末の店舗数は、前年同期末比で145店舗純増し、1,009店舗と、2001年秋に海外1号店を出店してからの16年目で1,000店舗を突破いたしました。

各エリアの業績トレンド

- ・グレーターチャイナ：営業利益は計画を上回る、大幅な増益**
 中国大陸は、中秋節や国慶節など祝日に合わせたキャンペーンが成功、既存店は増収値引きのコントロールで粗利益率が改善、経費削減も進み、計画を上回る大幅な増益
 香港は、既存店売上高が増収。粗利益率の改善、経費削減により、計画を上回る増益
 台湾は、景気低迷が継続、既存店売上高は減収。経費削減により、若干の増益
- ・韓国：営業利益はほぼ計画通り、若干の増益**
 消費低迷の影響が継続、既存店売上高は減収。粗利益率の改善、経費削減が進む
- ・東南アジア・オセアニア地区：計画を上回る、大幅な増収増益**
 東南アジア地区の売上は好調、既存店売上高は2桁増収、粗利益率、経費比率が改善
 2016年9月には、東南アジア初となるグローバル旗艦店をシンガポールに出店
- ・北米：米国の赤字幅は縮小。カナダの立ち上がりは順調**
 米国の既存店売上高は前年並み、粗利益率が大きく改善
 9月30日に初出店したカナダは、オープンした2店舗とも非常に好調なスタート
- ・欧州：ほぼ計画通り、営業利益は前年並み**
 既存店売上高は横ばい、粗利益率、経費比率もほぼ前年並み
 フランスで5店舗、ロシアで3店舗出店、着実に事業を拡大

12

次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

中国大陸、香港、台湾といったグレーターチャイナは、為替の押し下げ要因で、減収となりましたが、営業利益は計画を上回る、大幅な増益となりました。

まず、中国大陸ですが、中秋節や国慶節などの祝日に合わせたキャンペーンが成功したため、現地通貨ベースでの既存店および売上収益は増収となりました。また、値引きをコントロールしたことで粗利益率が改善したこと、経費削減を進めたことにより、計画を上回る大幅な増益となりました。

香港は、現地通貨ベースで既存店売上高は増収に転じております。また、粗利益率の改善、経費削減により、計画を上回る増益となりました。

台湾は、景気低迷が続いていることから、既存店売上高は減収となりましたが、経費削減を進めたことで、若干の増益を確保することができました。

韓国は、消費低迷の影響が継続しているため、現地通貨ベースでの既存店売上高は減収となりました。ただし、値引率を抑えたことによる粗利益率の改善、経費削減が進んだことにより、営業利益はほぼ計画通り、若干の増益となりました。

東南アジア・オセアニア地区は、計画を上回る、大幅な増収増益を達成いたしました。特に、東南アジア地区の売上が好調で、既存店売上高は2桁増収を達成し、粗利益率、経費比率ともに改善、計画を上回る大幅な増収増益となりました。

2016年9月には、東南アジア初となるグローバル旗艦店 オーチャードセントラル店をシンガポールに出店し、現地でのユニクロのプレゼンスが高まっております。

米国は、ほぼ計画通り、赤字幅が縮小いたしました。既存店売上高は前年並みに留まりましたが、粗利益率が大きく改善しております。なお、1月に1店舗を閉店し、店舗閉店損を約2億円計上しております。

9月30日に初出店したカナダですが、オープンした2店舗とも非常に好調なスタートとなり、計画以上の売上を達成しております。

欧州は、ほぼ計画通り、営業利益は前年並みとなりました。既存店売上高は横ばい、粗利益率、経費比率もほぼ前年並みとなっております。出店に関しては、この第1四半期に、フランスで5店舗、ロシアで3店舗出店し、着実に事業を拡大しております。

増収減益、計画を下回る

- ・**ジーユー事業：増収減益、売上、利益ともに計画を下回る**
 - ・既存店売上高は計画を下回るものの、前年同期比で微増
9月は、気温が高く推移した影響で、秋物商品の立ち上がりが悪く、大幅な減収
10月以降は、コーディガンやMA-1ブルゾンなどのトレンド商品が好調で増収
 - ・営業利益が減益となった要因は、粗利益率の低下と経費比率の上昇
前年は売上が好調で値引率が低い。今年は秋物商品の処分を早め、粗利益率が低下
広告宣伝費を中心に経費削減を進めたものの、人件費、物流費が増加し、経費比率が上昇
- ・**セオリー事業：営業利益はほぼ計画通り、前年並み**
- ・**コントワー・デ・コトニエ事業：計画を下回り、前年並みの利益**
- ・**プリンセス タム・タム事業、J Brand事業：赤字が継続**

		2016年8月期		2017年8月期		単位：億円
		第1四半期実績	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	
グローバルブランド事業	売上収益	918	927	927	+1.1%	
	事業利益 (売上比)	123 13.4%	96 10.4%	96	▲21.6%	▲3.0p
	その他収益・費用	0	0	0	-	
	営業利益 (売上比)	124 13.5%	95 10.3%	95	▲22.7%	▲3.2p

13

次に、グローバルブランド事業の第1四半期の業績ですが、売上収益は927億円、前年同期比1.1%増、営業利益は95億円、同22.7%減と、増収減益の結果となりました。これは、売上収益、営業利益ともに計画を下回る水準です。

ジーユー事業は、増収減益の結果となりました。これは、売上収益、営業利益ともに計画を下回っております。

第1四半期の既存店売上高は、計画を下回るものの、前年同期比で微増となりました。9月は気温が高く推移した影響で、秋物商品の立ち上がりが悪く、大幅な減収となりましたが、10月以降は、コーディガンやMA-1ブルゾンなどのトレンド商品が好調だったため増収となっております。

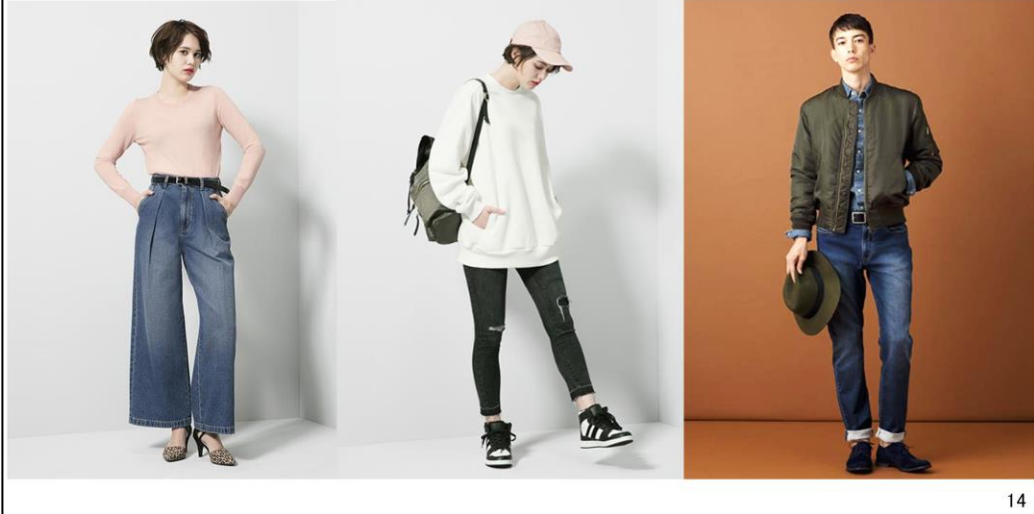
営業利益が減益となった要因は、粗利益率の低下と経費比率の上昇によります。前年は売上が好調で、値引率が低かった一方で、今年は売上が計画を下回ったことから、秋物商品の処分を早めたことで、粗利益率が低下いたしました。また、広告宣伝費を中心に経費削減を進めたものの、人件費、物流費が増加したため、経費比率が上昇しております。

セオリー事業の営業利益は、ほぼ計画通り、前年並みとなっております。

コントワー・デ・コトニエ事業の営業利益は、計画を下回り、前年並みとなっております。

プリンセス タム・タム事業、J Brand事業については、ほぼ計画通りの業績で、赤字が継続しております。

春物商品が順調な立ち上がり
デニムボトムス、スウェット、MA-1ブルゾンが好調



14

次に、ジーユー事業について補足させていただきます。
秋冬シーズンは苦戦いたしました。足元では、春物商品が順調な立ち上がりとなっております。

特に今年はデニムボトムスがトレンドとなっており、例えば、ワイドデニム、デザインデニム、スキニーデニムといったボトムス商品の販売が好調です。それに合わせたビッグスウェットプルパーカーなどのスウェット群も人気の商品となっております。また、秋冬から続いているMA-1ブルゾンの需要は引き続き堅調で、春物でもMA-1ブルゾンの販売は好調です。

春夏の商売からは、マーケティングの強化や、トレンド商品の期中増産などにより、業績の回復をめざしてまいります。

単位：億円

	2015年11月末	2016年8月末	2016年11月末	前年同期比
資産合計	12,645	12,381	14,109	+1,463
流動資産	9,689	9,245	11,145	+1,456
非流動資産	2,956	3,135	2,963	+7
負債合計	4,596	6,404	6,720	+2,124
資本合計	8,049	5,976	7,388	▲661

15

次に2016年11月末のバランスシートの説明をいたします。

資産合計は、主に流動資産が前年同期末比1,456億円増加したことにより、同1,463億円増加いたしました。

負債は、主に社債を発行したことにより、同2,124億円増加いたしました。

資本合計は、主にデリバティブ金融資産の評価額の減少により、同661億円減少いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

流動資産の増加 +1,456億円(9,689億円 ⇒ 1兆1,145億円)

- ・流動性の高い金融資産の残高は6,727億円と、同2,693億円増加
現金及び現金同等物の増加 +781億円、その他の短期金融資産の増加+1,911億円
2015年12月の社債発行にともなう現金の増加、営業キャッシュ・フローの増加による
- ・デリバティブ金融資産: ▲1,252億円(資産1,483億円 ⇒ 231億円)
保有する為替予約の平均レートが円安になったことに加え、11月末の為替レートが前年同期末比で円高となったため、その乖離幅が大幅に縮小したため
ヘッジ会計を適用していることから損益への影響はない
- ・たな卸資産の増加: +7億円(2,729億円 ⇒ 2,736億円)
【国内UQ】▲29億円 【海外UQ】▲29億円 為替影響、一部のエリアで在庫をコントロール
【グローバルブランド】+65億円 ジューの店舗増、秋冬商品の増加、春物商品の早期投入

負債の増加 +2,124億円(4,596億円⇒6,720億円)

- ・2015年12月 2,500億円の社債を発行
- ・繰延税金負債の減少: ▲396億円(448億円⇒ 52億円)

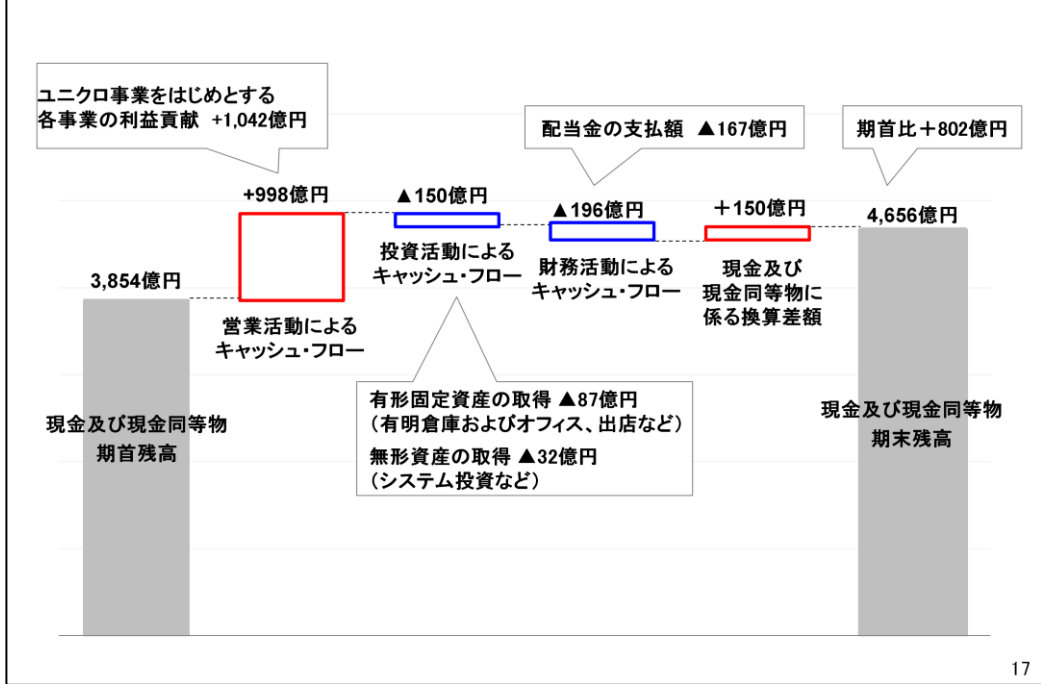
まず、流動資産が前年同期比1,456億円増加した要因をご説明いたします。流動性の高い金融資産の残高は6,727億円と、同2,693億円増加いたしました。内訳としては、現金及び現金同等物が同781億円増加、3ヶ月超の定期預金などの、その他の短期金融資産が同1,911億円増加いたしました。

これは、2015年12月の社債発行にともない、現金が増加したこと、営業キャッシュ・フローが増加したことによります。

デリバティブ金融資産は、資産側で231億円と同1,252億円減少いたしました。これは、保有する為替予約の平均レートが円安になったことに加え、11月末の為替レートが前年同期末に比べて円高となったため、その乖離幅が大幅に縮小したためです。国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。なお、ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はありません。

たな卸資産は2,736億円と、同7億円増加しております。国内ユニクロ事業の在庫は、同29億円減少しております。海外ユニクロ事業の在庫は、同29億円減少いたしました。これは、為替の影響および、一部のエリアで在庫をコントロールしているためです。グローバルブランド事業の在庫は、同65億円増加しております。主な要因としては、ジュー事業で、店舗数が増えたことに加え、秋冬商品の在庫の増加、春物商品の早期投入によるものです。

負債は、同2,124億円増加しております。これは、2015年12月に総額2,500億円の社債を発行した一方で、繰延税金負債が396億円減少したことによります。



次に、第1四半期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、998億円の収入となりました。これは主に、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、150億円の支出となりました。これは主に、有明倉庫およびオフィス、出店による有形固定資産の取得、システム投資などによる無形資産の取得によるものです。

なお、連結の設備投資額は134億円でした。

財務活動によるキャッシュ・フローは、196億円の支出となりました。これは主に、配当金の支払いによるものです。

以上の結果、2016年11月末における現金及び現金同等物の期末残高は4,656億円となりました。

業績予想は期初計画通り、変更なし

売上収益 : 1兆8,500億円 前期比 +3.6%

営業利益 : 1,750億円 前期比 +37.5%

親会社の所有者に
帰属する当期利益 : 1,000億円 前期比 +108.1%

	2016年8月期		2017年8月期		2017年8月期 第1四半期実績
	通期実績		通期予想	前期比	
売上収益 (売上比)	17,864 100.0%		18,500 100.0%	+3.6%	5,288 100.0%
事業利益 (売上比)	1,620 9.1%		1,800 9.7%	+11.1% +0.6p	864 16.4%
その他収益・費用	▲347		▲50	-	20
営業利益 (売上比)	1,272 7.1%		1,750 9.5%	+37.5% +2.4p	885 16.8%
金融収益・費用	▲370		0	-	156
税引前利益 (売上比)	902 5.1%		1,750 9.5%	+93.9% +4.4p	1,042 19.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	480 2.7%		1,000 5.4%	+108.1% +2.7p	696 13.2%

18

スライド18ページからは、2017年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

第1四半期の実績では、売上収益は計画に対して若干下回っておりますが、事業利益および営業利益は計画を上回って進捗しております。

なお、円安が進んだことにより、期初に見込んでいなかった為替差益156億円を金融収益・費用に計上したため、親会社の所有者に帰属する当期利益は、期初計画に対して、大幅に上回っております。

ただし、現段階では、為替の見通しが不透明なため、通期の業績予想は変更しておりません。

国内ユニクロ事業：通期は増収増益を予想

- ・1Qの売上収益はほぼ計画通り、営業利益は計画を若干上回る
- ・12月の売上は計画を若干下回る
- ・通期の既存店売上高(ECコマースを含む)は約2.0%増収、粗利益率は前年並み、経費削減により経費比率の改善を見込み、増収増益を予想

海外ユニクロ事業：通期は若干の増収、大幅な増益を予想

- ・1Qの売上収益は計画通り、営業利益は計画を上回る
- ・通期は若干の増収、営業利益は大幅な増益を予想。グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア、韓国が増益、米国の赤字幅の大幅な縮小を見込む
- ・通期の業績予想は1ドル約102円、1人民元15.4円のレートを前提。足元の円安が続いた場合、業績は計画比で上振れする見込み

グローバルブランド事業：通期は大幅な増益を予想

- ・1Qは、売上収益、営業利益ともに、計画を下回る
- ・前期はJ Brandの減損損失138億円を計上したため、今期の営業利益は大幅増益を予想
- ・ジュー事業の1Qは計画を下回り減益、12月の売上も計画を下回る。前上期の営業利益は約60%増益と非常に好調、今上期は減益の見込み。下期は、大幅な増益に転じさせ、通期での増益をめざす。下期は最旬トレンドのウィークリーストーリーの打ち出し、効果的な広告・販促、売れ筋商品の追加生産体制の強化、経費削減により、増益を達成
- ・セオリー事業は期初計画通り、増収増益を見込む

次に、各事業の通期の業績予想についてご説明いたします。

まず、国内ユニクロ事業ですが、第1四半期は、売上収益はほぼ計画通り、営業利益は計画を若干上回る進捗となっております。12月の既存店売上高は5.0%の減収と、売上は計画を若干下回る結果となりました。ただし、通期では、期初計画通り、既存店売上高は約2.0%の増収、粗利益率は前年並み、経費削減により経費比率を改善し、通期の国内ユニクロ事業は増収増益を見込んでおります。

海外ユニクロ事業の第1四半期は、売上収益は計画通り、営業利益は計画を上回って進捗しております。通期では、期初計画通り、売上は若干の増収、営業利益は大幅な増益を予想しております。エリア別では、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア、韓国が増益、米国の赤字幅の大幅な縮小を見込んでおります。なお、通期の業績予想は1ドル102円、1人民元15.4円のレートを前提としております。足元の為替1ドル115円、1人民元16.7円といった円安が続いた場合、業績は計画に対して上振れする見込みです。

グローバルブランド事業の第1四半期は、売上収益、営業利益ともに、計画を下回って進捗しています。ただし、前期はJ Brand事業の減損損失138億円を計上したため、今期の営業利益は、期初予想通り、大幅増益の予想です。

ジュー事業の第1四半期は減益と、計画を下回って進捗しております。また、12月の売上も計画を下回る結果となりました。前年の上期は、ヒット商品も多く、営業利益は約60%増益と非常に好調だったこともあり、今年の上期は減益となる見込みです。一方、下期については、大幅な増益に転じさせることで、通期での増益をめざしております。下期は最旬のトレンドを踏まえたウィークリーのストーリーの打ち出し、効果的な広告・販促への見直し、売れ筋商品の追加生産体制の強化、経費削減の努力により、増益を達成させたいと考えております。

なお、セオリー事業は期初計画通り、増収増益を見込んでおります。

配当金の予想ですが、中間配当金175円、期末配当金175円、あわせて年間配当金350円と、期初予想通りです。

有明本部で新しい商売体制を開始

- ・有明倉庫の最上階、5,000坪ワンフロアを有明本部とし、ユニクロの商品、商売機能を2017年2月上旬に移転予定
- ・社員の働き方を、チームワークを中心とした新しい働き方に
変革させ、商品作り、情報作りをコンカレントに、スピーディに進める
ことで、お客様の欲しい商品を、すぐに商品化できる体制を整える



(株)ファーストリテイリング (株)ユニクロ 有明本部
住所: 東京都江東区有明1-6-7-6F UNIQLO CITY TOKYO

なお、2017年2月上旬に、有明倉庫の最上階、5,000坪ワンフロアを有明本部とし、ユニクロのマーチャндаイジング、R&D部、マーケティング部、生産部、商品計画部、営業部、IT部などの商品、商売機能に移転する予定です。

有明本部では、社員の働き方を、チームワークを中心とした新しい働き方に
変革させ、商品作り、情報作りをコンカレントに、かつ、スピーディに進める
ことで、お客様の欲しい商品を、すぐに商品化できる体制を整えてまいります。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

連結対象事業別出退店 実績と予想

【単位:店舗】	16年8月期 期末	2017年8月期(2016/9~2016/11)実績				2017年8月期(2016/9~2017/8)予想			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,795	69	14	+55	1,850	196	50	+146	1,941
国内ユニクロ事業:※	837	15	11	+4	841	30	30	0	837
直営店	798	13	11	+2	800	-	-	-	-
大型店	205	5	3	+2	207	-	-	-	-
標準店等	593	8	8	0	593	-	-	-	-
FC	39	2	0	+2	41	-	-	-	-
海外ユニクロ事業:	958	54	3	+51	1,009	166	20	+146	1,104
中国	472	26	1	+25	497	-	-	-	-
香港	25	0	0	0	25	-	-	-	-
台湾	63	0	0	0	63	-	-	-	-
韓国	173	6	1	+5	178	-	-	-	-
シンガポール	24	1	0	+1	25	-	-	-	-
マレーシア	35	0	0	0	35	-	-	-	-
タイ	32	2	0	+2	34	-	-	-	-
フィリピン	32	2	0	+2	34	-	-	-	-
インドネシア	9	1	0	+1	10	-	-	-	-
オーストラリア	12	1	1	0	12	-	-	-	-
米国	45	4	0	+4	49	-	-	-	-
カナダ	0	2	0	+2	2	-	-	-	-
英国	10	0	0	0	10	-	-	-	-
フランス	10	5	0	+5	15	-	-	-	-
ロシア	11	3	0	+3	14	-	-	-	-
ドイツ	3	1	0	+1	4	-	-	-	-
ベルギー	2	0	0	0	2	-	-	-	-
グローバルブランド事業合計	1,365	21	15	+6	1,371	60	30	+30	1,395
ジーユー事業	350	15	8	+7	357	-	-	-	-
セオリー事業※	530	6	7	▲1	529	-	-	-	-
コントワー・デ・コトニエ事業※	348	0	0	0	348	-	-	-	-
プリンセス タム・タム事業※	137	0	0	0	137	-	-	-	-
総合計	3,160	90	29	+61	3,221	256	80	+176	3,336

注:ミナナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※ フランチャイズ店を含む

為替レート

連結決算取込 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2016年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)実績	120.7	134.6	184.7	18.9	10.3
2017年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)実績	103.0	114.4	131.2	15.3	9.2
2016年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	115.1	127.2	167.4	17.7	9.8
2017年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	102.0	114.0	138.0	15.4	8.9

バランスシート適用 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2016年8月期 第1四半期末為替レート 実績	122.8	129.9	184.6	19.0	10.6
2017年8月期 第1四半期末為替レート 実績	112.4	119.7	140.4	16.3	9.6
2016年8月期 期末為替レート 実績	103.2	114.9	134.9	15.4	9.2
2017年8月期 期末為替レート 予想	103.2	114.9	134.9	15.4	9.2

設備投資、減価償却費

設備投資・減価償却費

単位: 億円

	設備投資					減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	グローバル ブランド	システム他	合計	
2016年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	16	86	19	28	151	92
2017年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	14	45	20	53	134	85
2016年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	45	268	84	126	523	367
2017年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	26	198	96	145	465	384